

2020年11月10日

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2020年10月29日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、11月10日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

サノフィ、2020年度第3四半期に1株当たり事業利益⁽¹⁾が8.8%成長(CER ベース)

2020年度第3四半期の売上高の成長⁽²⁾は、デュピクセント[®]とインフルエンザワクチンの堅調な需要が牽引

- 純売上高は、調整前0.2%減(CER ベースで5.7%増⁽²⁾)の94億7,900万ユーロ
- スペシャルティケアの売上高は、デュピクセント[®](68.6%増の9億1,800万ユーロ)の好業績と製品群全体の成長に牽引され、23.8%増
- ワクチンの売上高は、インフルエンザワクチンの記録的な売上高がCOVID-19を原因とするブースターワクチン、トラベラーズワクチン、およびMenactra[®]の減少によって部分的に相殺され、13.6%増
- ジェネラルメディシンの売上高は、中国のVBPプログラムと米国の糖尿病を反映し、1桁台の減少(6.4%減)
- CHCの売上高は、2019年10月のザンタック[®]の自主回収と、その他の国での対面販売薬局の来客数減少を受けて、1.1%減

2020年度第3四半期の1株当たり事業純利益⁽¹⁾の成長(CER ベース)は、堅調な売上高と効率改善が牽引

- 2020年度第3四半期の事業純利益は、調整前1.0%増(CER ベースで9.4%増)の22億9,900万ユーロ
- 2020年度第3四半期の1株当たり事業純利益⁽¹⁾は、調整前0.5%増(CER ベースで8.8%増)の1.83ユーロ
- 2020年度第3四半期のIFRS 1株当たり純利益は1.55ユーロ

研究開発の進展

- 7件の新規第III相プログラムをオンコロジーおよび免疫パイプラインで開始
- COVID-19の遺伝子組換えタンパク質を用いたアジュバントワクチンの第I相/第II相試験の登録が完了
- Principia社の買収により、脳透過性のBTK阻害剤tolebrutinibと革新的なBTK阻害プラットフォームの完全な所有権を取得

2020年度通年の1株当たり事業純利益⁽¹⁾の見通しを上方修正

- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2020年度通年の1株当たり事業純利益⁽¹⁾は、CER ベースで7%~8%増⁽³⁾と予測。2020年10月の平均レートを適用すると、2020年度通年の1株当たり事業純利益への為替レート変動の影響は、-6%~-7%と予測

サノフィ最高経営責任者(CEO)のポール・ハドソンのコメント:

「当社は、デュピクセント[®]とワクチンの堅調な売上高に支えられ、好調な四半期業績を達成し、これを受けて通年の見通しを上方修正しました。引き続き、重大な患者のニーズに対応する有望な医薬品を提供するべく、戦略的優先事項に取り組みます。この目的に向けて、Principia社の買収を問題なく完了し、さまざまな重篤疾患に対処する複数のBTK阻害剤を追加して研究開発パイプラインを拡充しました。COVID-19ワクチンについては、グローバルなアクセスの確保と共に、ファストトラックに沿って開発を進めており、最も必要とする人々にワクチンを届けるため、主要な国、地域、非営利団体と事前注文契約を締結しています」

| | 2020年度 第3四半期 | 前年同期比 | 前年同期比 (CER) | 2020年度 年初から9カ月 | 前年同期比 | 前年同期比 (CER) |
|----------------------------|-----------------|--------|----------------|-------------------|---------|----------------|
| IFRS 純売上高(為替調整前) | €9,479m | -0.2% | +5.7% | €26,659m | +0.5% | +3.0% |
| IFRS 純利益(為替調整前) | €1,952m | +10.5% | — | €11,233m | +298.9% | — |
| IFRS 1株当たり純利益(為替調整前) | €1.55 | +9.9% | — | €8.96 | +298.2% | — |
| フリーキャッシュフロー ⁽⁵⁾ | €1,884m | +4.7% | — | €5,452m | +39.7% | — |
| 事業営業利益 | €3,027m | +1.0% | +9.2% | €7,710m | +5.6% | +9.6% |
| 事業純利益 ⁽¹⁾ | €2,299m | +1.0% | +9.4% | €5,820m | +5.5% | +9.6% |
| 1株当たり事業純利益 ⁽¹⁾ | €1.83 | +0.5% | +8.8% | €4.64 | +5.0% | +9.3% |

(1) 当カンパニーの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(付録7(英語版プレスリリース)で定義)。2020年度第3四半期の連結損益計算書については付録3(英語版プレスリリース)に、IFRS純利益(為替調整前)から事業純利益への調整については付録4(英語版プレスリリース)に記載しています。(2) 特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて(CER)算出(付録7(英語版プレスリリース)を参照)。(3) 2019年



度の再表明した 1 株当たり事業純利益は、Regeneron 社投資について持分法での会計処理を中止したことを反映し、5.64 ユーロ。(4) フリーキャッシュフローは、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です(付録 7(英語版プレスリリース)で定義)。

2020 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間ののサノフィ売上高

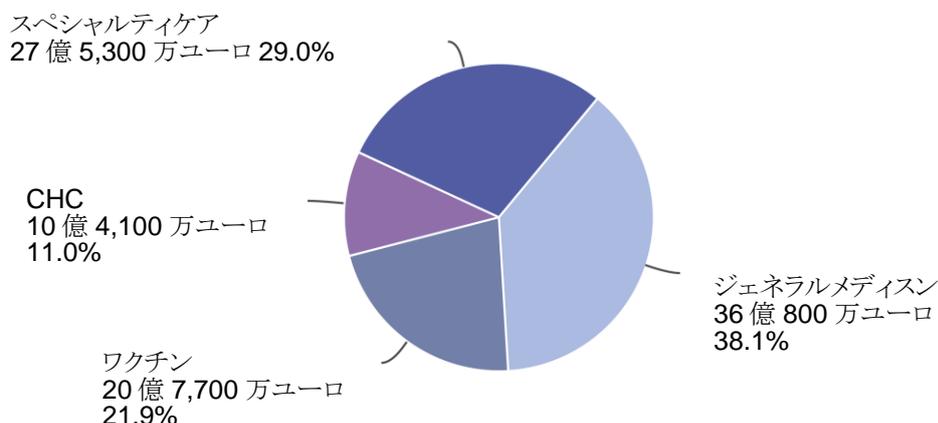
特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して¹算出しています。

2020 年度第 3 四半期におけるサノフィの売上高は、調整前ベースで 0.2%減の 94 億 7,900 万ユーロでした。主に米ドル、ブラジル・リアル、トルコ・リラ、アルゼンチン・ペソ、メキシコ・ペソ、ロシア・ルーブル、および中国元の下落によって、5.9 ポイントの悪影響を受けました。サノフィの売上高は、CER ベースで 5.7%増でした。

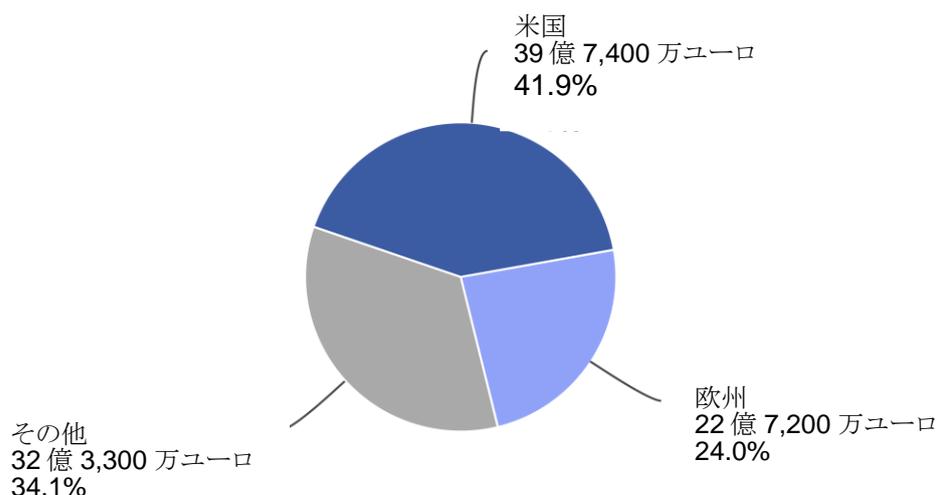
2020 年度年初から 9 カ月間におけるサノフィの売上高は、調整前ベースで 0.5%増の 266 億 5,900 万ユーロでした。為替レートの変動により、2.5 ポイントの悪影響を受けました。サノフィの売上高は、CER ベースで 3.0%増でした。

グローバルビジネスユニット(GBU)

グローバルビジネスユニット別に見た 2020 年度第 3 四半期純売上高(単位 100 万ユーロ、全売上高に占める割合%)



地域別に見た 2020 年度第 3 四半期純売上高(単位 100 万ユーロ、全売上高に占める割合%)





2020 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の事業営業利益

2020 年度第 3 四半期における事業営業利益 (BOI) は、1.0%増の 30 億 2,700 万ユーロとなりました。事業営業利益は、CER ベースで 9.2%増でした。純売上高に占める事業営業利益の割合は、前年同期比 0.3 ポイント増加し、31.9%となりました。年初から 9 カ月間における事業営業利益は、5.6%増の 77 億 1,000 万ユーロでした。事業営業利益は、CER ベースで 9.6%増でした。純売上高に占める事業営業利益の割合は、1.4 ポイント増加し、28.9%となりました。

¹ 財務指標の定義は、英語版プレスリリース付録 7 を参照。

地域別売上高

| サノフィ売上高 (単位: 100 万ユーロ) | 2020 年度 第 3 四半期 | 前年同期比 (CER) | 2020 年度 年初から 9 カ月間 | 前年同期比 (CER) |
|---------------------------|--------------------|----------------|-----------------------|----------------|
| 米国 | 3,974 | +14.2 % | 9,854 | +9.4 % |
| 欧州 | 2,272 | +3.7 % | 6,617 | -0.2 % |
| その他 | 3,233 | -1.7 % | 10,188 | -0.3 % |
| －中国 | 655 | -8.9 % | 1,962 | -11.2 % |
| －日本 | 390 | -11.2 % | 1,316 | -10.9 % |
| －ブラジル | 169 | -8.0 % | 629 | +4.2 % |
| －ロシア | 140 | -0.6 % | 504 | +7.3 % |
| サノフィ売上高合計 | 9,479 | +5.7 % | 26,659 | +3.0 % |

第 3 四半期における米国の売上高は、デュピクセント®とインフルエンザワクチンの好調な業績に牽引され、14.2%増の 39 億 7,400 万ユーロとなりました。年初から 9 カ月間における米国の売上高は、主にデュピクセント®が糖尿病の減少を十分に補い、9.4%増となりました。

第 3 四半期における欧州の売上高は、3.7%増の 22 億 7,200 万ユーロでした。デュピクセント®、インフルエンザワクチン、およびオンコロジーの業績によって、エスタブリッシュ処方製品と糖尿病の売上高減少が十分に相殺されました。年初から 9 カ月間における欧州の売上高は、デュピクセント®の追加的な貢献によって部分的に相殺されたものの、COVID-19 の流行によってエスタブリッシュ処方製品の売上高が減少したことを反映し、微減 (0.2%減) となりました。

第 3 四半期におけるその他の国の売上高は、希少疾患、ワクチン、Lovenox®、およびデュピクセント®の業績によって、中国の VBP プログラムの悪影響が部分的に相殺されたことを反映し、1.7%減の 32 億 3,300 万ユーロとなりました。第 3 四半期における中国の売上高は、ワクチンと CHC の大幅な成長、デュピクセント®の発売にもかかわらず、VBP プログラムの影響を受け 8.9%減の 6 億 5,500 万ユーロとなりました。第 3 四半期における日本の売上高は、エスタブリッシュ処方製品の売上高減少と、COVID-19 流行の影響を受けた CHC の売上高減少を反映し、11.2%減の 3 億 9,000 万ユーロとなりました。年初から 9 カ月間におけるその他の国の売上高は、主に中国の VBP プログラムの影響を受けて、微減 (0.3%減) となりました。

サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100 カ国において 10 万人以上の社員が、革新的な医科学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

サノフィは、「Empowering Life」のスローガンの下、ヘルスジャーニー・パートナーとして人々を支えます。

日本人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。



サノフィ今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関するFDAやEMAなどの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功しない可能性があるという事実、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とサノフィが外部成長の機会から利益を得る可能性、関連する取引を完了する能力、および規制当局の認可を得る能力、知的財産権に関連するリスクおよび知的財産に関する現在係争中または将来に生じる訴訟、当該訴訟の最終結果に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、不安定な経済情勢と市場状況、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、COVID-19が当社、顧客、サプライヤー、ベンダー、その他の事業パートナー、それらの財務状態、当社の従業員、世界経済全体に及ぼす影響が含まれます。上記に対するCOVID-19の重大な影響は、当社にも悪影響を及ぼす可能性があります。この状況は急速に変化しており、当社が現在認識していない追加的な影響が生じ、以前に特定された他のリスクが悪化するおそれがあります。このようなリスクや不確実性には、2019年12月31日終了事業年度フォーム20-F年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成したSECおよびAMFに対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものも含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。